

汚泥脱水機でインドネシアの下水処理場を復活 横浜市中小企業の新たなチャレンジ

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」においてジャステック株式会社(神奈川県横浜市港北区、室田 佳昭代表取締役)が提案する「バタム島における既設浄化槽汚泥処理施設向け前処理脱水技術導入事業案件化調査」(インドネシア)を採択しました。



写真提供/横浜市

バタム市の下水処理場の様子。このような下水処理場が、インドネシアには約200箇所ある。



「SPATON 脱水機」
 脱水能力に優れ、磨耗や故障が極めて生じにくく、長期安定的な稼動が可能。さらに、自浄機能を有するために洗浄水は一切使用しない。
 (写真提供/ジャステック(株))

インドネシアのバタム市の下水処理場は、機能低下のため処理効率が悪く、1990年代の建設当初は2,850m³/日あった処理能力が、現在は400m³/日に低下し機能不全に陥っています。

そこで、ジャステック(株)は現地に同社の特許製品である『SPATON脱水機』を家庭汚泥の前処理のために導入し、汚泥を水分と固形物に分離することで、処理施設への流入水の汚濁負荷量を激減させ、下水処理場の処理効率を向上させることを計画しています。なお、バタム市は、横浜市と環境に配慮した持続可能な都市づくりを目指すために、相互に協力するための覚書を締結しており、本事業は自治体間のこうした取り組みにも貢献するものです。

同社は将来、バタム市以外の中小都市への本製品の導入と同時に、民間の工場廃水の処理のための製品の普及も構想しています。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための 情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2015年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。120件の応募のうち34件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

■参考:(プレスリリース)案件化調査 2015年度第2回公示の採択結果について

http://www.jica.go.jp/press/2015/20160222_01.html

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 横浜国際センター 担当: 原田 ・ 広瀬 ・ 須藤
 TEL 045-663-3252 e-mail: yictad@jica.go.jp